


# 2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2025年2月14日



証券コード：6568

 神戸天然物化学株式会社

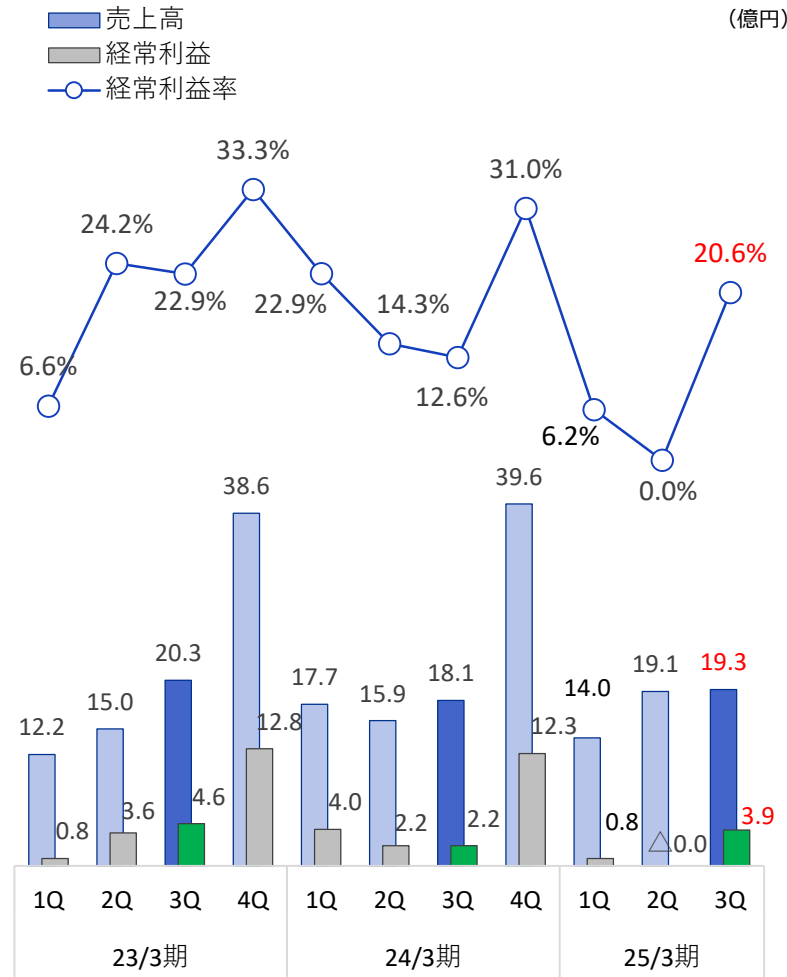


● **2025/3期3Q累計業績**  
1.3%増収、44%経常減益

● **ただし、3Q発生ベースの経常利益率は20%と大きく改善。前期好調の反動に直面する医薬分野で、出荷が集中**

● **機材分野は好調に推移。在庫調整終了などにより、ディスプレイ関連の需要増が収益を下支え**

## 四半期推移



## 売上業績マトリックス (3Q累計の実績 対前年)

	機材	医薬	バイオ
業況評価			
量産	在庫調整回復基調	前期好調の反動減	堅調
開発	好調	好調	低調
研究	堅調	堅調	堅調

- 通期見通しを下方修正。売上で11.5億円、経常利益で4.8億円をそれぞれ引下げ
- 主因は医薬・バイオ領域の売上前提引下げ。両分野とも4Qに出荷が集中する傾向はあるものの、当期は例年ほどの売上は期待できないと判断
- 医薬・バイオでは期首想定のお客様取込みが進捗できず、製品構成の悪化も収益の重石となる見通し

## 2025/3期 業績見通し修正

	従来見通し	修正見通し
売上高	90億円	78.5億円
		▲11.5億円
	機材：+0.5億円、医薬：▲5.5億円、バイオ：▲6.5億円	
経常利益	13.8億円	9.0億円
		▲4.8億円
	コストは想定よりも抑制進むも、売上前提引下げ影響は吸収できず	

# 1. 決算概要

---

(百万円)	2023/3期	2024/3期		2025/3期	3Q累計前年比較	
		3Q累計	通期	3Q累計	差異	変化率
売上高	8,628	5,184	9,154	<b>5,254</b>	+69	+1.3%
機能材料	2,832	1,910	2,714	<b>2,233</b>	+323	<b>+16.9%</b>
医薬	4,259	2,133	4,609	<b>2,026</b>	△106	△5.0%
バイオ	1,536	1,141	1,829	<b>994</b>	△147	△12.9%
営業利益	2,163	850	2,081	<b>322</b>	△527	△62.0%
経常利益	2,199	864	2,094	<b>484</b>	△380	△44.0%
経常利益率	25.5%	16.7%	22.9%	<b>9.2%</b>	△7.5pp	—
当期純利益	1,542	595	1,493	<b>338</b>	△256	△43.1%
EBITDA*	3,082	1,526	3,003	<b>984</b>	△542	△35.5%
EBITDAマージン	35.7%	29.4%	32.8%	<b>18.7%</b>	△10.7pp	—
実質EBITDA*	3,093	1,533	3,012	<b>1,141</b>	△392	△25.7%
実質EBITDAマージン	35.9%	29.6%	32.9%	<b>21.7%</b>	△7.9pp	—

\* 実質EBITDA：EBITDA（営業利益+減価償却費）に研究助成金を加算したものと2025/3期より定義。これに併せ、過去実績も実績EBITDA基準に遡及修正

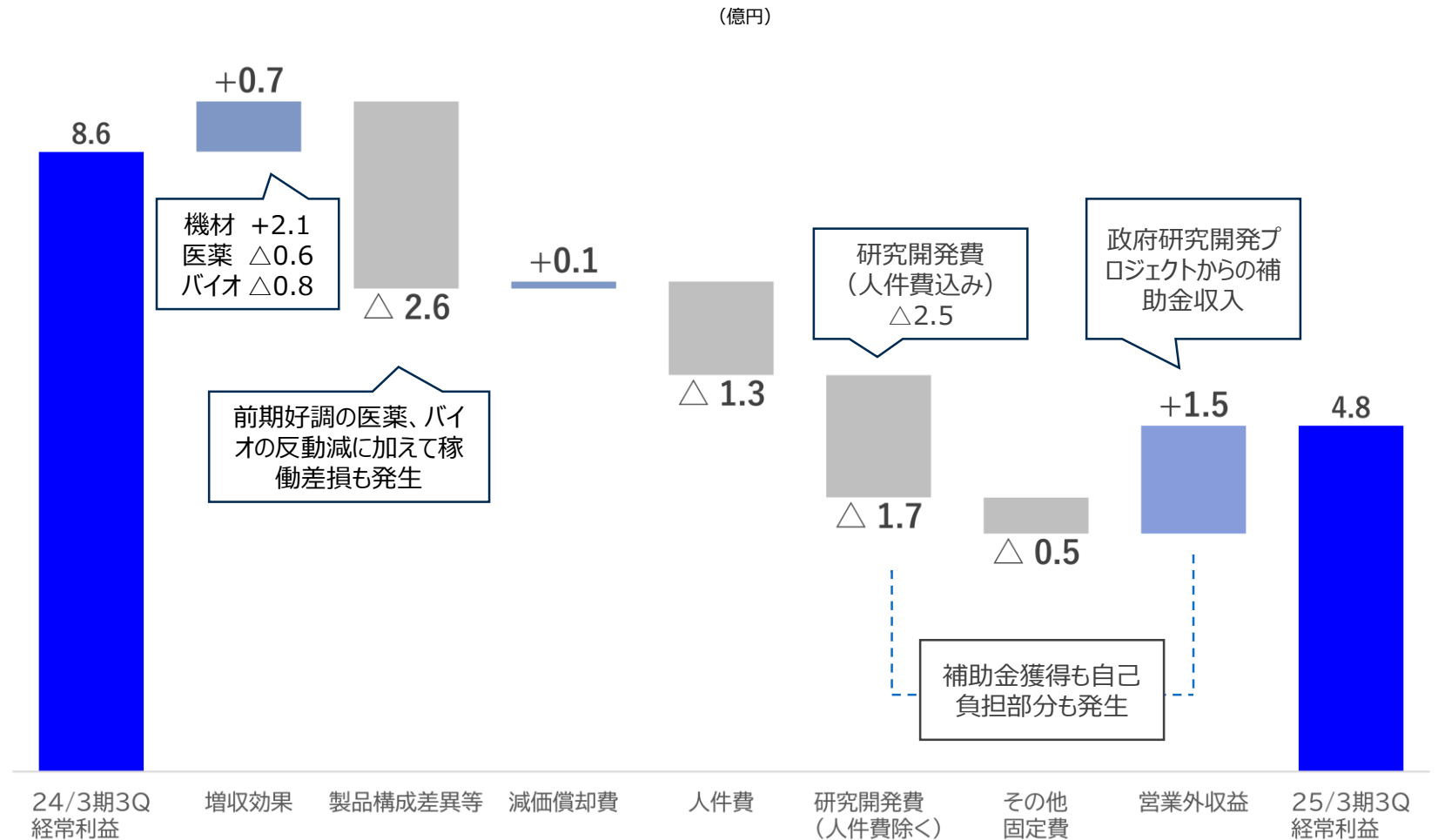
● 3Q累計売上高はほぼ前年比横ばい。事業領域別には機能材料が好調な一方、医薬・バイオが苦戦

● 3Q累計経常利益は前年比44%の減少。医薬分野で前期好調の反動が発生したうえ、高採算製品群の出荷一巡が影響

● 3Q累計の実質EBITDAマージンは21.7%。4Q決算次第ではあるものの、これまでのところは厳しい水準で推移

- 3Q累計経常利益を前年と比較すると、大幅減益となった主因は、製品構成差。これには前期の好調を牽引した高採算製品群の一巡に加え、減収に伴う工場稼働率の低下が影響
- コスト面でも、生産能力拡大に伴う人件費増、研究開発費の増加が収益を圧迫。研究開発費増においても、政府研究開発プロジェクトからの補助金収入あるも、それだけでは吸収できず。これら研究開発費負担は期首想定を上回るが、当社の継続的成長には必要不可欠と認識

## 2025/3期3Q累計経常利益 増減益要因分析



# 四半期経営成績

(百万円)	2023/3期				2024/3期				2025/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,222	1,503	2,037	3,864	1,779	1,593	1,812	3,969	1,405	1,916	1,932
機能材料	712	603	832	682	610	576	723	804	798	769	665
医薬	284	553	886	2,533	923	673	535	2,476	395	703	927
バイオ	224	346	317	647	244	343	553	688	211	442	339
営業利益	79	342	459	1,282	404	223	222	1,230	85	△8	246
経常利益	81	363	466	1,287	408	227	228	1,230	87	△0	398
経常利益率	6.6%	24.2%	22.9%	33.3%	22.9%	14.3%	12.6%	31.0%	6.2%	△0.0%	20.6%
当期純利益	51	256	320	914	286	154	154	897	56	△1	283
EBITDA	293	562	695	1,532	621	448	457	1,477	305	218	460
EBITDAマージン	24.0%	37.4%	34.1%	39.7%	34.9%	28.1%	25.2%	37.2%	21.7%	11.4%	23.8%
実質EBITDA*	293	564	702	1,533	621	450	461	1,478	305	221	613
実質EBITDAマージン	24.0%	37.5%	34.5%	39.7%	34.9%	28.3%	25.5%	37.2%	21.7%	11.6%	31.8%

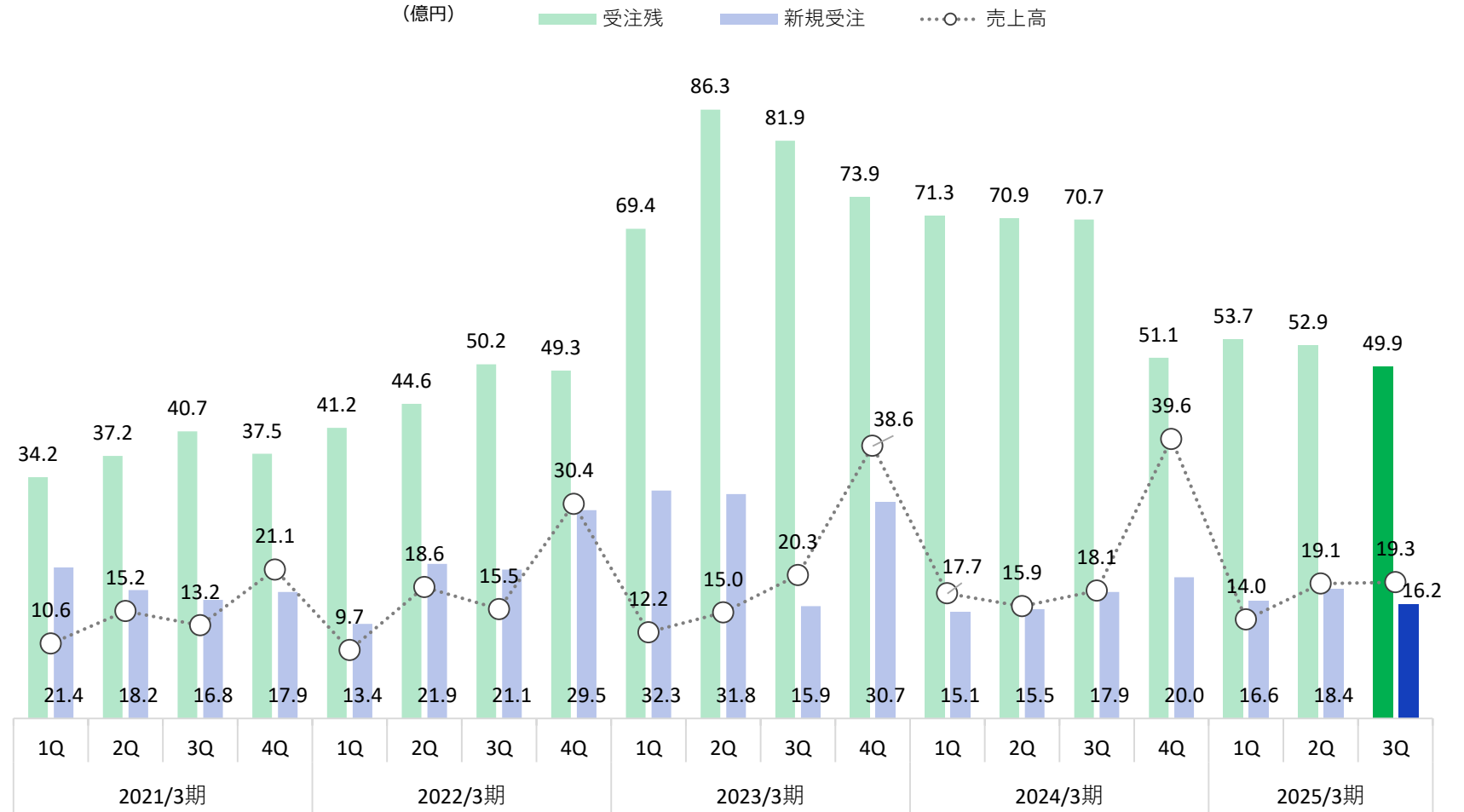
\* 実質EBITDA：EBITDA（営業利益+減価償却費）に研究助成金を加算したものと2025/3期より定義。これに併せ、過去実績も実績EBITDA基準に遡及修正

- 3Q発生ベースでは前年比で増収増益。経常利益率、実質EBITDAマージンともに過去と遜色ない水準を確保

- 3Q改善の主因は上期に大きく調整した医薬分野で出荷が集中したこと。ただし、4Qに向けて従来のような加速感が出てきている状況とは言い難いと認識

- 3Qの新規受注は前年3Q比9%増の16億円。3Q末受注残は50億円
- 新規受注ペースは2024/3期以降、およそ15-20億円/四半期で変わらず。大手顧客の分業化の流れから当社への引き合いは引続き堅調ながら、加速感に欠ける点は懸念材料
- なお、来期後半から新棟稼働で新規受注の上昇傾向を想定するも、営業力の強化が必須

## 売上、新規受注および受注残の推移



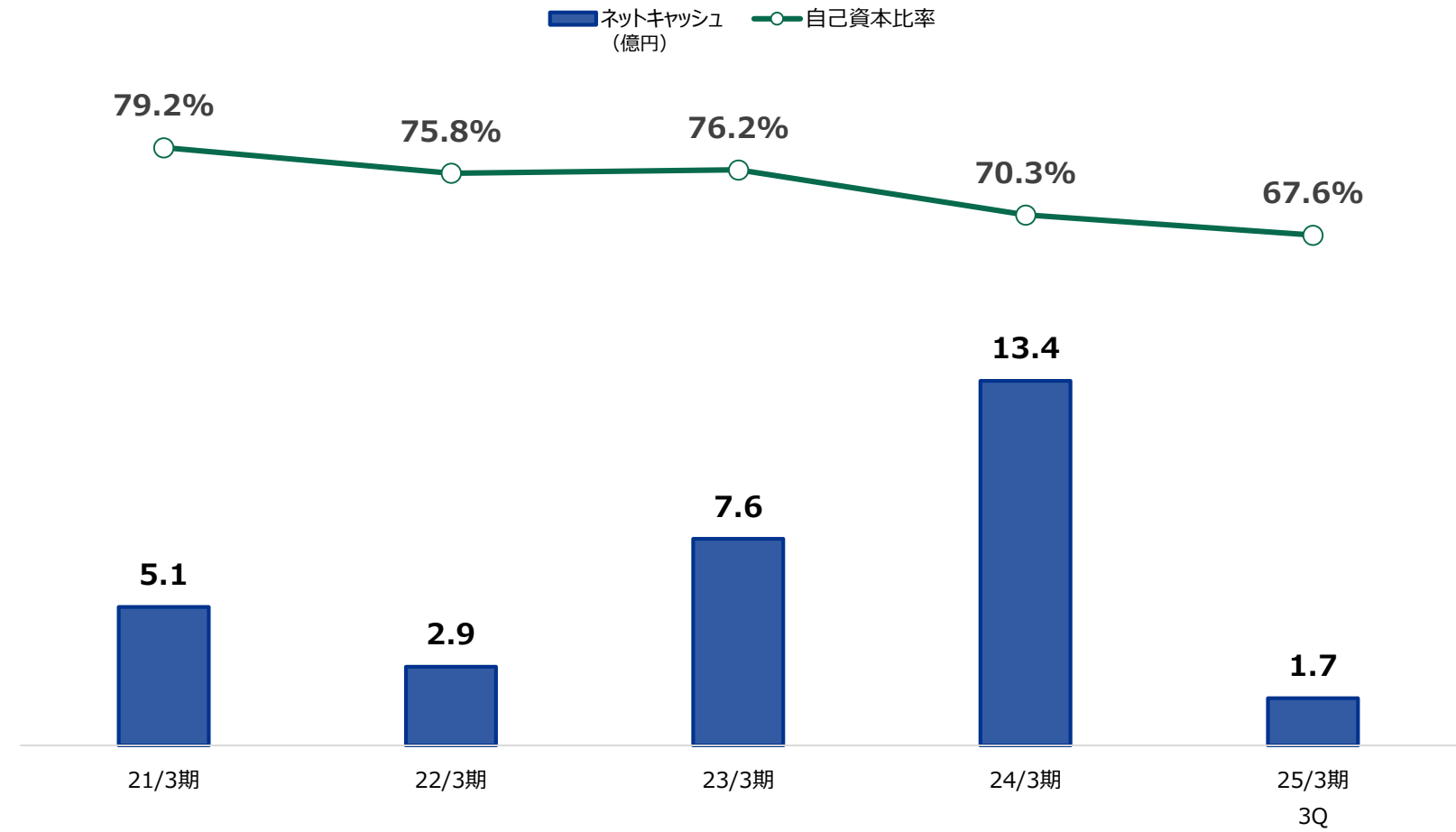
※顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず



- 資産勘定では新規設備投資（出雲第二工場およびバイオリサーチセンターの新棟）に伴う建設仮勘定が大幅増加。大型設備投資が顕在化
- 一方、それに見合う形で有利子負債や長期前受収益が拡大。結果として、総資産は4%程度の拡大に

(百万円)	2023/3期	2024/3期	2025/3期 3Q	前期末差異
流動資産	7,459	8,558	<b>7,603</b>	△954
現預金	2,297	3,311	<b>3,124</b>	△187
売上債権	2,792	2,626	<b>1,215</b>	△1,410
棚卸資産	2,279	2,518	<b>3,111</b>	+593
固定資産	7,945	10,063	<b>11,848</b>	+1,784
土地	1,847	1,847	<b>2,248</b>	+401
建設仮勘定	8	1,345	<b>3,089</b>	+1,744
繰延税金資産	336	1,151	<b>1,085</b>	△65
総資産	15,404	18,621	<b>19,451</b>	+830
負債	3,659	5,534	<b>6,311</b>	+776
有利子負債	1,536	1,970	<b>2,950</b>	+980
未払金/未払税	1,059	1,699	<b>652</b>	△1,047
長期前受収益	9	923	<b>1,767</b>	+844
純資産	11,745	13,086	<b>13,140</b>	+53
負債純資産合計	15,404	18,621	<b>19,451</b>	+830

- ネットキャッシュ水準は低下  
有利子負債増加により、ネット  
キャッシュは急速に減少。実質無  
借金経営に変化はないものの、  
キャッシュを積極的に投資する  
というスタンスは継続
- 自己資本比率は67.5%  
じりじりと低下傾向にはあるもの  
の、財務安全性は依然として盤  
石



## 2. 2025年3月期 決算見通し

---

- 通期見直しを下方修正。売上で11.5億円、経常利益で4.8億円をそれぞれ引下げ
- 主因は医薬・バイオ領域の売上前提引下げ。両分野とも4Qに出荷が集中する傾向はあるものの、当期は例年ほどの売上は期待できないと判断
- 医薬・バイオでは期首想定のお客様取込みが進捗できず、製品構成の悪化も収益の重石となる見直し

## 2025/3期 業績見直し修正

	従来見直し	修正見直し
売上高	90億円	78.5億円
		▲11.5億円
	機材：+0.5億円、医薬：▲5.5億円、バイオ：▲6.5億円	
経常利益	13.8億円	9.0億円
		▲4.8億円
	コストは想定よりも抑制進むも、売上前提引下げ影響は吸収できず	



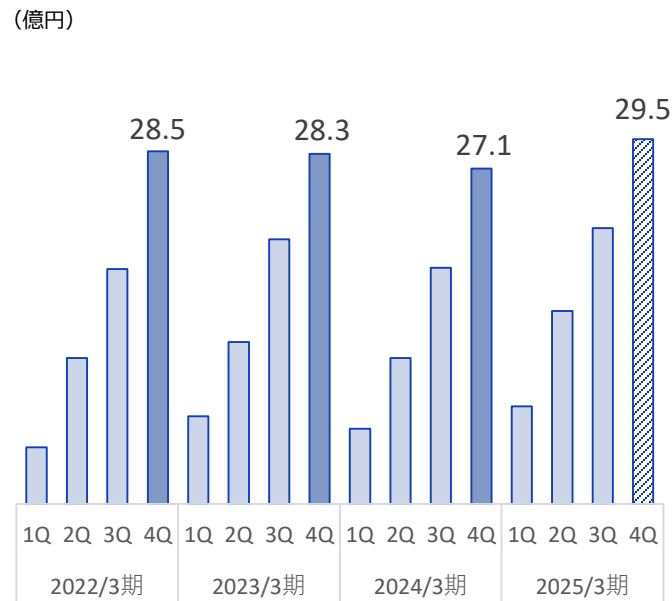
- 修正想定では、対前期比で14%減収、57%経常減益となる見通し。通期でここまでの減益となるのは2020/3期以来
- 修正見通しにおける経常利益率は11%、実質EBITDAマージンは23%程度。こちらも2020/3期以来の低水準を余儀なくされる見通し
- 修正想定における3Q時点の進捗率は、売上高で約7割、経常利益でおおよそ5割といったところ。4Q変調の収益構造に変化はなく、4Qで収益を大きく積上げる見通し

(百万円)	2023/3期	2024/3期	2025/3期見通し			修正見通し前年比較		3Q時点 修正見通し 通期進捗率
			従来 (2024/5/13)	修正 (2025/2/14)	通期見通し 増減額	差異	変化率	
売上高	8,628	9,154	9,000	<b>7,850</b>	△1,150	△1,304	△14.3%	66.9%
機能材料	2,832	2,714	2,900	<b>2,950</b>	+50	+235	+8.7%	75.7%
医薬	4,259	4,609	4,050	<b>3,500</b>	△550	△1,109	△24.1%	57.9%
バイオ	1,536	1,829	2,050	<b>1,400</b>	△650	△429	△23.5%	71.0%
営業利益	2,163	2,081	1,380	<b>750</b>	△630	△1,331	△64.0%	43.1%
経常利益	2,199	2,094	1,380	<b>900</b>	△480	△1,194	△57.0%	53.8%
経常利益率	25.5%	22.9%	15.3%	<b>11.5%</b>	△3.9pp	△11.4p	—	—
当期純利益	1,542	1,493	960	<b>639</b>	△321	△854	△57.2%	53.0%
実質EBITDA*	3,093	3,012	2,304	<b>1,792</b>	△512	△1,219	△40.5%	63.7%
実質EBITDAマージン	35.9%	32.9%	25.6%	<b>22.8%</b>	△2.8pp	△10.1p	—	—

\* 実質EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金で算出

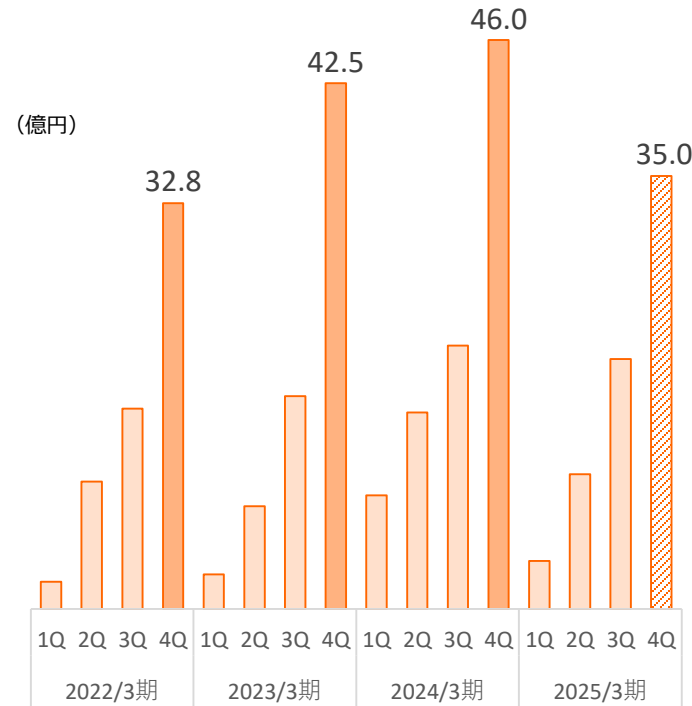
## 機材分野 売上高推移

- ディスプレイ関連を中心に分野全体として需要が回復基調である認識に変化なし
- 今後、FP-4のフル稼働に向けて半導体関連の需要獲得に注力



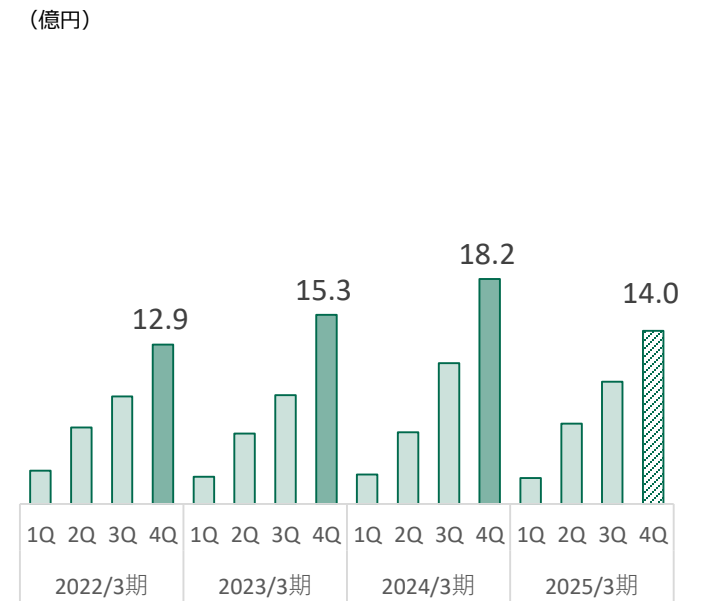
## 医薬分野 売上高推移

- 開発案件など積極受注に努めたが、計画未達
- 顧客で高薬理活性やグローバル品のニーズが強まる
- 当社もそれらに対応できる体制を早期に整備し、より付加価値の高い需要の獲得を狙う



## バイオ分野 売上高推移

- 想定していた開発案件などの進捗が難航、それらを補う開発案件の獲得も十分には至らず
- 早期に営業を強化、開発案件を中心に積極受注。中長期的に成長できるビジネスへ発展



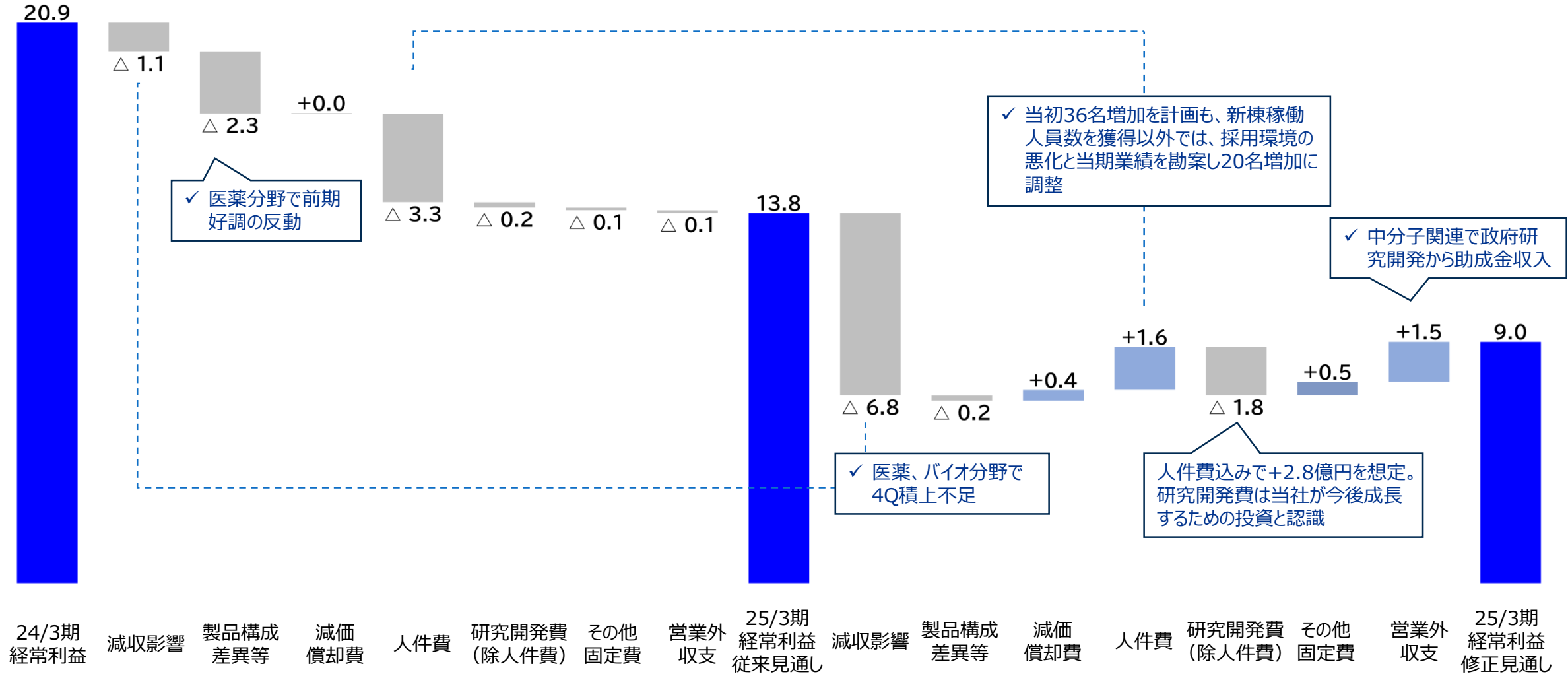
# 四半期経営成績

- 4Q発生ベースでは、前年比で大幅減収減益の見通し。1Q～3Q比では例年通り、4Qは医薬の大型案件の一部販売が集中するものの、今期の売上積み上げは例年を下回るペースと想定
- その結果、経常利益率及び実質EBITDAマージンとも、例年であれば4Qが年間で最高水準に達するものの、今期は3Qと大きく変わらない水準を余儀なくされると想定
- 事業分野別には、医薬・バイオ分野で4Qの積上げ不足が目立つ展開

(百万円)	2023/3期				2024/3期				2025/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q見通し
売上高	1,222	1,503	2,037	3,864	1,779	1,593	1,812	3,969	1,405	1,916	1,932	2,595
機能材料	712	603	832	682	610	576	723	804	798	769	665	716
医薬	284	553	886	2,533	923	673	535	2,476	395	703	927	1,473
バイオ	224	346	317	647	244	343	553	688	211	442	339	405
営業利益	79	342	459	1,282	404	223	222	1,230	85	△8	246	427
経常利益	81	363	466	1,287	408	227	228	1,230	87	△0	398	415
経常利益率	6.6%	24.2%	22.9%	33.3%	22.9%	14.3%	12.6%	31.0%	6.2%	△0.0%	20.6%	16.0%
当期純利益	51	256	320	914	286	154	154	897	56	△1	283	300
実質EBITDA*	293	564	702	1,533	621	450	461	1,478	305	221	613	651
実質EBITDAマージン	24.0%	37.5%	34.5%	39.7%	34.9%	28.3%	25.5%	37.2%	21.7%	11.6%	31.8%	25.1%

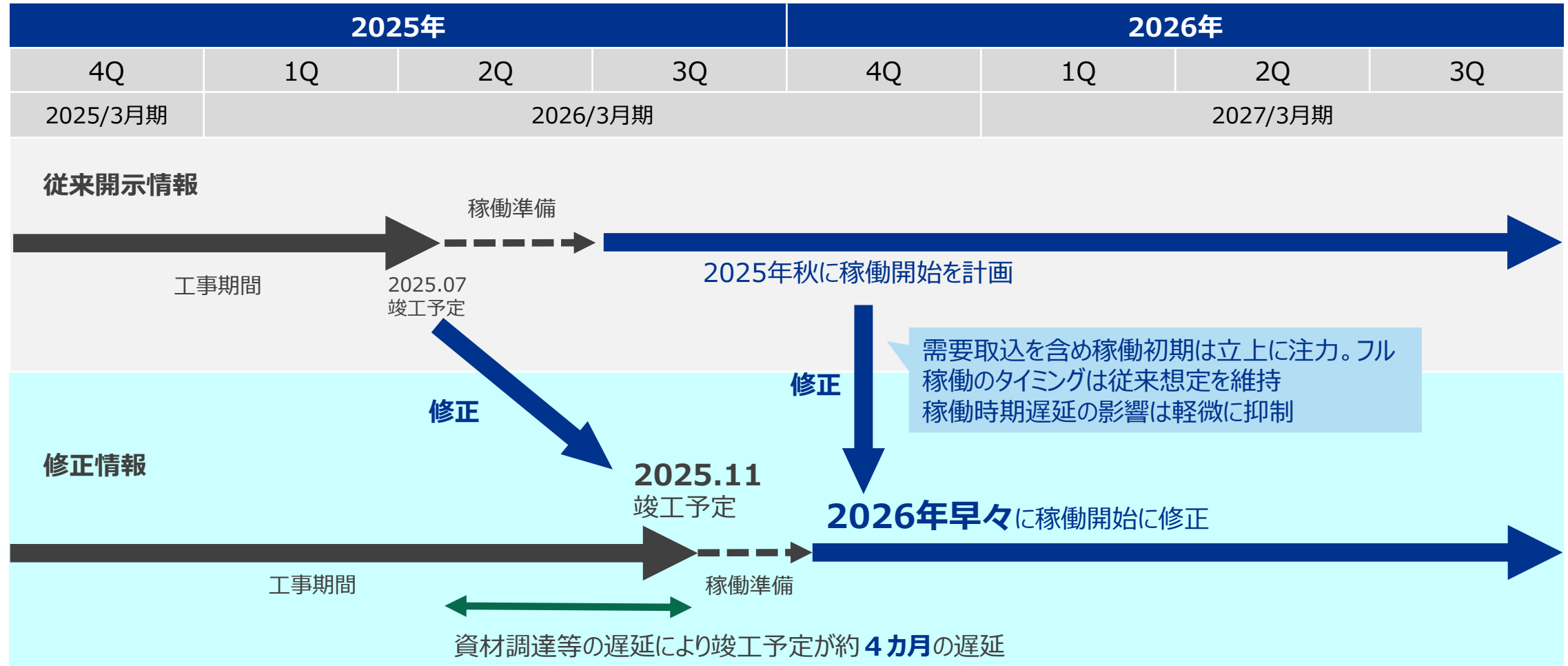
\* 実質EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金収入で算出

(億円)





機材新棟（FP-4）：高度な金属不純物管理を実現する製造設備。機能材料分野の既存事業拡大と新規案件の取込みには必須なプロセス



1. 4Q偏重型決算構造に伴う**見通し蓋然性の乏しさ**
2. 強い引き合いの更なる取込みを目的とした**営業力強化**
3. 変動する**顧客ニーズへの対応**
4. 研究開発から**事業化へ更なる加速**

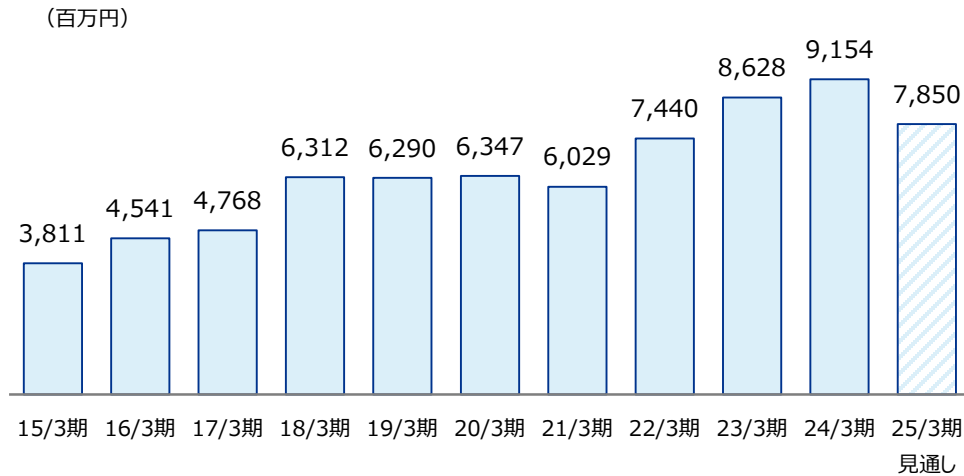


**2025年5月を目途に、中期経営計画を開示し、  
上記課題の解決策と成長シナリオの提示を予定**

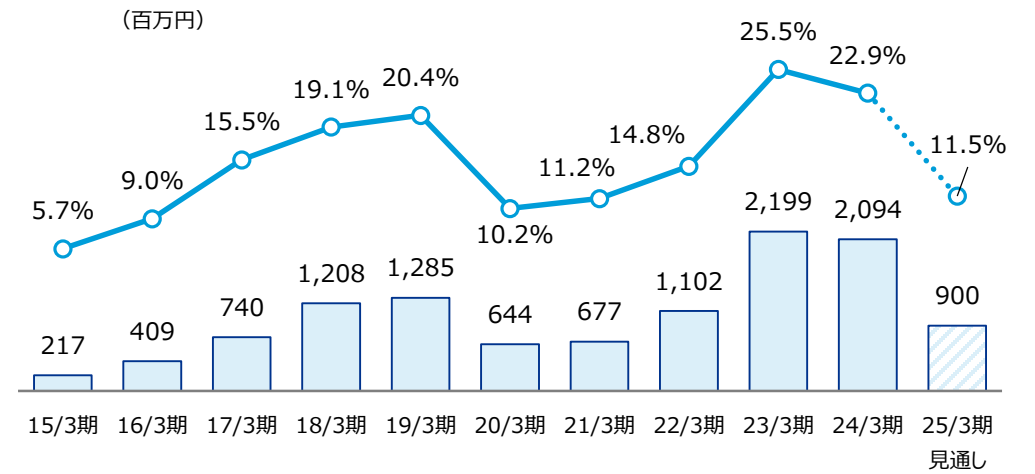
## 3. APPENDIX

---

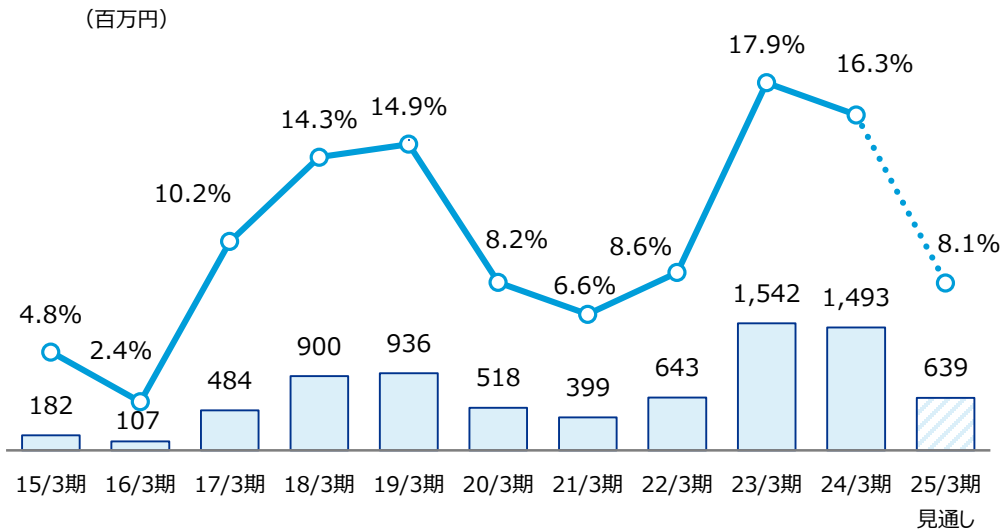
## 売上高



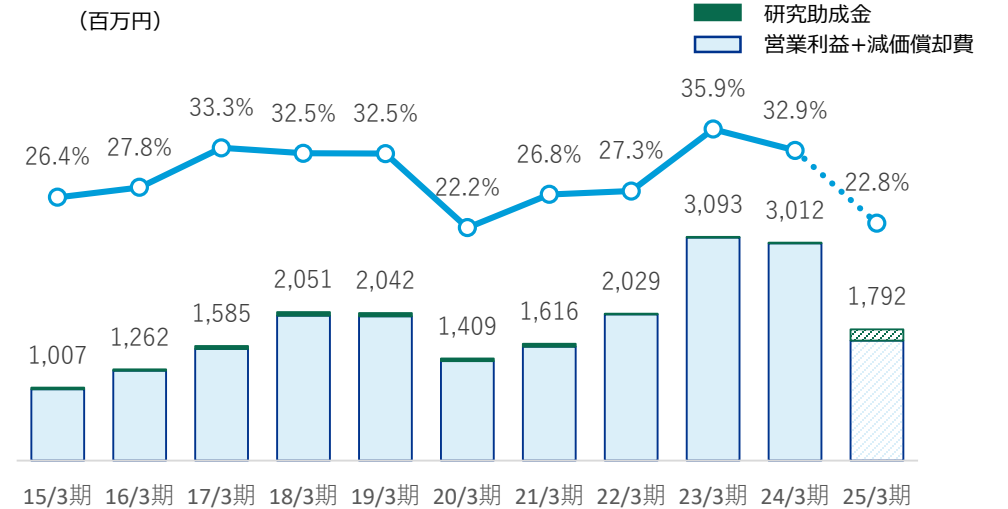
## 経常利益・経常利益率



## 当期純利益・当期純利益率



## 実質EBITDA・実質EBITDAマージン



実質EBITDA：従来のEBITDA（営業利益+減価償却費）に研究助成金を加算したものと  
2025/3期より定義。これに併せ、過去実績も実績EBITDA基準に遡及修正



## < 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) [knc-ir@kncweb.co.jp](mailto:knc-ir@kncweb.co.jp)